



Title	アーカイブ化される連環画
Author(s)	加部, 勇一郎
Citation	連環画研究, 8, 128-129
Issue Date	2019-03-10
DOI	https://doi.org/10.14943/2115.98474
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/98474
Type	departmental bulletin paper
File Information	renkanga_8_128-129.pdf



アーカイブ化される連環画

加部勇一郎

連環画はどうやって見ることができるのか？

いま中国では続々と、昔のものが再版されているから、大都市の大きめの本屋へ行けば、新品を買うことができるだろう。当時のものが欲しいなら、土日に屋外で開かれる古書市をのぞいてみたらいい。上海なら文廟^{ウエンミヤオ}が、北京なら潘家園^{パンジャユエン}が有名だ。タイトルから探したければ、ネットで古本を買うという手があるかもしれない。有名な古書のサイトに「孔夫子旧书网^{コンフーツ}」がある。ここは日本への発送はしてくれないが、上海学術書店など、日本で中国書をあつかう本屋に頼めば、間^{あいだ}を取り持ってくれる。

このような手順は、連環画を使って研究したい場合、当然踏まねばならないわけだが、ただ読みたいだけであるなら、まったく必要ない。今の世の中、連環画はネットで手軽に見られるからだ。ここでその種のサイトを一つ紹介しよう。

取りあげるのは、「中華連環画数字図書館」である。他に「中国連環画数字図書館」というサイトもあるので、ご注意を。「中華」の方は、神州共享（北京）文化传媒有限公司が提供するもので、「中華連環画数字閲読館」とも呼ばれるようだ。「数字」は「デジタル」、「伝媒」は「(マス) メディア」のこと。神州共享の紹介ページにある「産品簡介」によれば、連環画芸術の保護と継承を旨とし、連環画作品の選択と整理、デジタルデータ化を行い、とくに若者に向けて広く提供するものなのだという。

連環画を閲読するには、“注册”（登録）する必要があるが、手続きは簡単で、なにより、アカウント取得の際によくある「中国で使える携帯電話の番号」が求められないのがいい。

登録が済んだアカウントとパスワードで“登录”（ログイン）すると、さまざまなジャンルの連環画を読むことができる。ジャンルは、古典小説や歴史物語、中国の革命物語はもちろん、探偵ものに武俠もの、偉人ものにシェイク



サイト「中華連環画数字図書館」のトップページ。右上の星の中に入っているのは雷鋒。クリックした先には、雷鋒関連の連環画が集められていた。(2019.3.1 閲覧、以下同様)

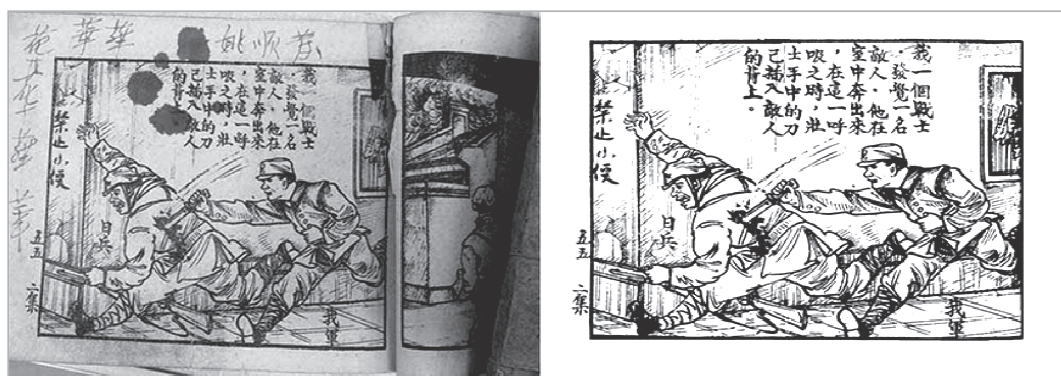
スパイものなど、バラエティに富んでいて、時代はさまざま、題材も中国に限らない。形式もいろいろで、映画を場面ごとにキャプチャーした電影連環画があれば、現行政府の推し進める「中国の夢」を、連環画を使って伝えようとするものもある。「有声連環画」のページでは、機械音らしき声がテキストを読み上げてくれる。連環画本体のみならず、関連するイベントレポートや特集記事、研究資料など、多くの文字資料を読むこともできる。

なによりすばらしいのは、北京の中国国家図書館に蔵されている民国期の連環画が、大量に閲覧できることだ。民国期のものは、近ごろは再版されたりもするが、量は非常に少ないし、古書市でも当時のものはまず見かけない。

それらはもう 70 年も前のものだから、紙は劣化しボロボロになり、汚い文字で名前などが書かれている。しかしそれらは公開にあたり、デジタル加工で版面をきれいにする「^{メイコン}美工」作業が進められているという。



本誌第二号でも取りあげた、沈曼雲 (1911-1978) の紹介ページ (「民国連環画閲覧室」より)



左がもとの図で、右が「美工」後 (サイト内の「連環画保護」より)

落書きが消えるのは寂しいが、きれいな版面は、やはりうれしい。「美工」前が見られるようになれば、なおうれしい。このサイトの、今後の展開に期待しよう。

中華連環画数字図書館
孔夫子旧书网

<http://www.zhhlhh.com>
<http://www.kongfz.com>